

# アートプロジェクト

## ちからちへ

市民参加のかたち：制作参加・ワークショップ・展示鑑賞

### 障がいのある仲間たちとつくる「ち」型モニュメントプロジェクト

千葉駅周辺に、障がいのある人たちとともに制作した「ち」型モニュメントを10か所に設置するプロジェクト。綺麗に整備されたまちに、かつてのストリートアートの記憶と重ねる形で、自由な表現を復活させる。モニュメントにはQRコードを添え、制作に関わった福祉施設の情報へ誘導。見る人は作品から無意識の偏見に気づき、障がいへの意識変容が促される。差別の歴史、言葉にならないメッセージ、儚さや愛、ストリートアートにも共通点を見るアール・ブリュットをまち中へ解放する。落書きや破損、天候への対応策も整備。福祉施設や関係団体と連携し、障がいのある仲間たちが、自分らしく表現し続けられる環境をつくる。社会に溶け込むアートのように、障がいのある人たちが自然と溶け込み、必要とされる社会を目指して。人もまちも変化していく様を示す、協働と発見のプロジェクトである。

#### 宮本 はなえ

1985年千葉県四街道市出身。千葉県立検見川高等学校卒業。2010年武蔵野美術大学造形学部油画学科版画専攻卒業。双子の母。社会福祉士、保育士、調理師。社会福祉法人よつかいどう福祉会理事、同法人地域コーディネーター、及び「生活介護はちみつ」主任支援員。言葉では言い表せない感情や事象を表現するために絵を描いている。2015年より四街道市在住の若手作家によるグループ展「テンテンテンテン・・・展」を立ち上げ、今年10周年を迎える。2017年より子ども向けアートワークショップを開始。現職では、主に知的障がいのある成人のアート活動を支援。作品展企画ほか、四街道市と協同してTシャツやイベントチラシ等へのアートワーク起用を進める。アートは、言葉以外でのコミュニケーションツールとして、どんな人にも有意義なものであると考えている。10代の頃、毎日過ごした千葉駅周辺のストリートアートに惹かれ、美術を志してからアール・ブリュットに魅了されている。

